

ホームドア及び視覚障害者誘導用ブロックに対する視覚障害者のニーズについて

第 1 回調査検討委員会に先立ち、中野泰志委員を中心に、ワーキンググループ形式で意見交換会を実施し、ニーズの把握を行った。

日時・場所：12 月 22 日 19 時～21 時、JTB 総合研究所 会議室

参加者（敬称略）：橋井正喜・三宅 隆（日本盲人会連合）、金井國利・榊原 賢二郎（日本網膜色素変性症協会）、並木（弱視者問題研究会）、今野真紀・今野浩美（鉄道ホーム改善推進協会）、大倉（成蹊大学）、中野（慶應義塾大学）

1. プラットホームにおけるホームドアや視覚障害者誘導用ブロックの意義について

- ・線路への転落防止：生死にかかわる最も重要な要素
- ・電車に乗り降りする際の乗車位置把握するものの手段のひとつ：利便性の要素

2. 視覚障害者におけるホームドアや視覚障害者誘導用ブロックの意義について

ホームドアの役割はプラットホームからの転落防止であるが、視覚障害者にとっては以下のような有効性がある。

- 1) 長軸方向（線路に対して平行な、ホーム上の方向）への移動を連続的に可能にする「手がかり」のひとつ
- 2) 移動する際に視覚障害者誘導用ブロックと併用することで、安全性と利便性を両立
- 3) ホーム乗車位置と車両ドアの関係を知るためのもの

3. 新型ホームドアの特徴

- ・過渡期であるため、さまざまなタイプのものが開発されている
- ・さまざまな車両の扉位置に対応しているタイプは、開口部が大きく、乗車時の車両扉位置と 1 対 1 でリンクしていない
- ・下部が空いているなど、壁面を有するタイプに限らない

（参考）視覚障害者の利用からみた新型ホームドアの特徴

- ・新型ホームドアのうち、バーやロープといった昇降式のもの、転落防止の観点からは一定の安全性を確保するものの、視覚障害者にとってホームドアの有効性である「長軸方向の把握」及び「車両ドア位置の特定」のどちらも一般的なホームドアと比較して手がかりとしづらい。
- ・壁がなく、触れたり、近づくことができない構造のため、辿って歩くことができない
- ・下部の空間が空いており、白杖のてがかりとしづらい
- ・開口部が大きく、乗車時の車両ドア位置がわからない

※安全と安心の両方がないと視覚障害者は歩くことができない

- ・ホームドア、視覚障害者誘導用ブロック、音声案内、声掛け等、複数の対応により、移動を保障する必要がある
- ・東京、名古屋、大阪などの都市部は混雑度が地方部に比べ高い等、ホームの歩行時の注意点について、駅によって全国一律ではない。